

■「世界男女格差報告」と「ジェンダー・ギャップ指数」

世界経済フォーラム（World Economic Forum）は世界中のビジネス、政治、学術等の社会のリーダーたちが連携し、世界情勢の改善に取り組む、独立した国際機関です。毎年スイスのダボスで開催される年次総会は、近年、一般ニュースで取り上げられることも多くなっています。そしてこの経済フォーラムが毎年秋に発表しているのが「世界男女格差報告」（The Global Gender Gap Report）です。この報告では2006年から米ハーバード大研究者等との共同による、男女の性別による格差の大きさと範囲を捉え、その進捗を追跡するための枠組みで、各国の男女間格差を数値化した「世界ジェンダー・ギャップ指数」（The Global Gender Gap Index : G.G.G.I.）が導入され、世界各国の男女格差を測る目安として信頼されています。

■「ジェンダー・ギャップ指数」指数の3つの特徴

この指数には留意すべき3つの基本的な考え方、特徴があります。

①格差 対 水準 : Gaps vs. levels

水準の高低ではなく、男女間の格差に焦点を当てていること・・・一般的に豊かな国は教育や健康問題においても恵まれた環境にあります。この指数は国の豊かさや発展状況の水準ではなく、あくまで男女間の格差を測る物差しとして作られています。

②成果 対 手段 : Outcomes vs. means

成果や結果に、より重きを置いていること・・・指数の目的は男性と女性の基本的権利に関してその位置関係を端的に描き出すことです。このため国の具体的政策や文化、習慣に関連する指標、すなわち手段、方法に関連すると考えられるものは含まれていません。例えば、専門的知識が必要な仕事や指導的立場、管理職数などの男女格差は成果として含まれますが、産休の長さなどは政策的指標なので含まれていません。

「世界ジェンダー・ギャップ指数」(対象 135 カ国)

(The Global Gender Gap Index : G.G.G.I.) <表1>

2013年ランク	国	スコア
1	アイスランド	0.8731
2	フィンランド	0.8421
3	ノルウェイ	0.8417
4	スウェーデン	0.8129
5	フィリピン	0.7832
6	アイルランド	0.7823
7	ニュージーランド	0.7799
8	デンマーク	0.7779
9	スイス	0.7736
10	ニカラグア	0.7715
11	ベルギー	0.7684
12	ラトビア	0.7610
13	オランダ	0.7608
14	ドイツ	0.7583
15	キューバ	0.7540
16	レソト	0.7530
17	南アフリカ	0.7510
18	英国	0.7440
19	オーストリア	0.7437
20	カナダ	0.7425
21	ルクセンブルグ	0.7410
22	ブルンジ	0.7397
23	アメリカ	0.7392
24	オーストラリア	0.7390
25	エクアドル	0.7389

26位以下の主な国

45	フランス	0.7089
69	中国	0.6908
71	イタリア	0.6885
101	インド	0.6551
105	日本	0.6498
111	韓国	0.6351
127	サウジアラビア	0.5879

※スコア数値は「1」で男女間の完全な平等を示す

DATA : The Global Gender Gap Report 2013/World economic forum

「世界ジェンダー・ギャップ指数」における日本の分野別順位

<表2>

評価分野	経済参画と機会	教育	健康と命	政治的力	総合
順位	104	91	34	118	105
指数	0.5841	0.9757	0.9791	0.0603	0.6498

※スコア数値は「1」で男女間の完全な平等を示す

「経済参画と機会」「政治的力」の2分野における評価基準

<表3>

●経済参画と機会 : Economic Participation & Opportunity

- ①男性と女性の仕事への参画の比率
- ②同等の仕事における男性と女性の賃金、収入の比率
- ③方針決定者、上級管理職、マネージャーなどの職における男性と女性の比率
- ④専門的職業、技術職における男性と女性の比率

●政治的力 : Political Empowerment

- ①国会議員レベルにおける男性と女性の比率
※地方議員レベルについては将来の調査課題とされている。
- ②閣僚などにおける男性と女性の比率
- ③過去50年の国家元首の男性と女性の比率

③男女平等 対 女性のエンパワーメント :

Gender equality vs. women's empowerment

女性が獲得している力よりも男女の平等に、より近いかどうかによって国のランク付けをしていること・・・女性が獲得している力の大きさより、選ばれた指標において、男女間の格差が減少しているかどうかに関心を当てています。

■日本のジェンダーギャップ指数は世界で105位

最新の2013年のレポートでは、この日本の男女平等指数（ジェンダー・ギャップ・指数）は136カ国中105位でした。<表1>（参考：2012年=101位、2011年=98位）この指数は、経済分野、教育分野、政治分野及び保健分野のデータから構成されていて、「1」に近ければ近いほど男女間の平等が実現していることを示しています。ただしレポートの序文に述べられているように、この指数は国の豊かさや開発度などを表したのではなく、あくまでも男女間の不平等ギャップを表していることに留意する必要があります。

■国連開発計画が発表するもう一つの指数

ところで、世界各国の男女格差を表す有力な指数には他に、国連開発計画（UNDP）が報告しているジェンダー不平等指数（Gender Inequality Index : G.I.I.）があります。この指数によれば2012年の日本の順位は145

カ国中で21位となっています。これはG.I.I.の評価分野が保健分野、エンパワーメント分野、労働分野の3つとなっているためだと考えられますが、この2つの指数の順位の違いから日本の男女共同参画の遅れている部分が見えてくるといえます。G.G.G.I.における日本の105位の順位評価を<表2>で個別に見てみると評価分野4つの構成要素のうち、①経済参画と機会②政治的力の分野、その2つの具体的な評価基準は<表3>とされていますが、この2つの分野が他に比べて大きく遅れていることがわかります。OECDの一角を担う先進国である日本にふさわしい男女共同参画が推進され、G.G.G.I.の100位前後の順位を上げるためには、男女間の全ての分野にわたる格差の縮小はもちろん、この2つの分野での女性の参画が一層重要であると考えられます。

◆データ

- ・世界経済フォーラムニュースリリース (PDF・日本語)
<http://goo.gl/OtKBH9>
- ・世界経済フォーラム世界男女格差報告 (PDF・英語)
<http://goo.gl/a4qe3L>
- ・人間開発報告書2013概要冊子 - UNDP (PDF・日本語)
<http://goo.gl/n44ymL>
- ・内閣府男女共同参画局行政施策トピックス3
<http://goo.gl/Kqm09s>